

野村万作 新狂言の会

闇に浮かぶ能舞台、
水面に揺れる二本のかがり火、
臥待月の夜、
野村万作・萬斎親子が舞い謡う――。

狂言 素袍落
狂言 弓矢太郎



野村万作



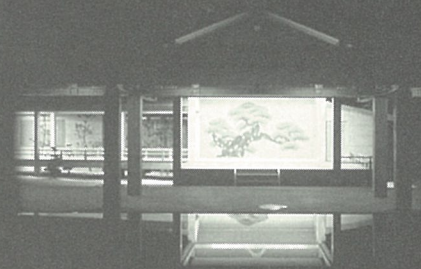
野村万之介



野村萬斎



石田幸雄



とき 2004年
8月5日
(木曜日)

◆開場18時30分◆開演19時
◆ところ
黒部市国際文化センター「カラーレ」
野外能舞台/限定400席

◆入場料

一般 6000円
高校生以下 2000円

■当日は18時30分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただきます。
■チケットは「カラーレ」だけで発売いたします。

◆カラーレ倶楽部先行発売日
4月4日(日)午前9時30分〜

◆一般発売日
4月11日(日)午前9時30分〜

- この公演は黒部市の助成により低料金に設定しております。
- 5歳未満のお子様の入場はご遠慮願います。
- 公演中の一時保育(無料)を希望される方は事前にご連絡ください。
- 雨天が予想される場合は雨台羽等をご用意ください。会場内で傘のご使用はお断りいたします。
なお、荒天の場合は会場がカーターホールに変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

◆お問い合わせ/カラーレ

TEL 0765(57)1201

主催/黒部市 財団法人黒部市国際文化センター
協賛/チューリップテレビ
後援/黒部市教育委員会・月刊Takt

コラールでの薪狂言の季節がやってきました。

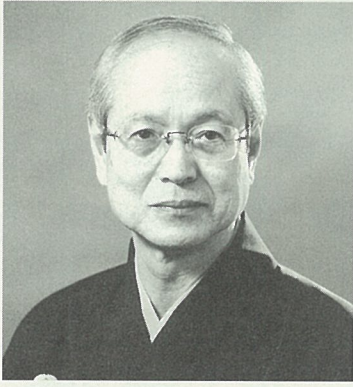
当日の天候を気にしながらも、夏のコラールでの狂言会は、私が楽しみにしている公演のひとつです。

程良い観客席に囲まれた能舞台は、私どもにとってはホームグラウンドの舞台として安定感がありますし、観る方にとっても自然の中での鑑賞は心地よいものでしょう。

光陰矢のごとし、私は舞台上に立つて今年で七十年になりました。心して、古い木の花を咲かせたいと考える昨今でございます。

二つの演目を通じて、狂言の和樂の世界をお楽しみください。

野村万作



野村万作 (狂言師)

一九三二年生まれ。故六世野村万蔵の次男。祖父・故初世野村萬斎及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。早稲田大学文学部卒業。狂言の最高秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊国屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞など多くの受賞歴を持つ狂言界の至宝。国の内外で狂言普及に貢献。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組む。一九九四年、NHKで「釣狐に挑む」と題するドキュメンタリーが放映され、多くの人々に感銘を与えた。著書に「太郎冠者を生きる」「狂言三人三様 野村万作の巻」がある。



野村万之介 (狂言師)

一九三九年生まれ。故六世野村万蔵の五男。父に師事。重要無形文化財総合指定者。「万之介狂言の会」主宰。狂言界の代表的演者の一人。芸術選奨文部大臣新人賞受賞。亡父の洒落な芸を継承している。「野村狂言団」万作の会の重要メンバーとして、海外公演にもたびたび参加。また、大学の狂言サークルを指導して久しい。



野村萬斎 (狂言師)

一九六六年生まれ。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。東京芸術大学音楽学部卒業。三歳で初舞台後、「三番史」や最高秘曲「釣狐」「花子」などを披く。「狂言」ごさる乃座「主宰。国の内外での狂言公演に参加。一方で映画や舞台、T.Vドラマに出演するなど、幅広い活躍も目立つ。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞等を受賞。著書に「萬斎でござる」「狂言サイボーグ」「狂言三人三様 野村萬斎の巻」がある。



石田幸雄 (狂言師)

一九四九年生まれ。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。大曲の「三番史」「釣狐」「花子」をすでに初演。また、新しい作品についての試みにも意欲的な発表が多い。海外公演の経験も豊富である。

薪狂言 番組

解説 石田幸雄

狂言 素袍落 すおうおとし

急に伊勢参りを思い立った主人は、以前から同行を約束していた伯父をとりあえず誘っておこうと、太郎冠者を使いに出すことにします。そして、餞別をもらおうと土産が大変だから、伯父に問われても供は決まっていなくて言うよう命じます。伯父は急なことで同行を辞退しますが、太郎冠者が供をするであろうと察して、門出の酒を振る舞い、餞別に素袍まで渡します。太郎冠者は上機嫌で帰路につくのですが……。

太郎冠者の屈託のない姿、明るい飲みっぷりと酔いぶりが楽しい作品です。

主 高野和憲
太郎冠者 野村万作
伯父 野村万之介
後見 深田博治

狂言 弓矢太郎 ゆみやたろう

常に弓矢を携えた太郎は、臆病者のくせに、何でも射とおおいばり。仲間たちは、そんな太郎を脅かしてやろうと相談します。太郎は仲間から天神の森に鬼が出ると聞いて目をまわしますが、息を吹き返すと性懲りもなく、まともや腕自慢をはじめます。そこで肝試しに、天神の森の老松に扇をかけてくることになりました。さてさて、その結末は……。

臆病な太郎の狼狽ぶりにご期待ください。

当屋 石田幸雄
太郎冠者 竹山悠樹
立衆 野村万之介
深田博治
高野和憲
月崎晴夫
後見 野村良作

太郎 野村萬斎

後見 野村良作